

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和3年12月28日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを○ で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO (地域DMO)	
観光地域づくり法人 の名称	(一社) 八幡浜市ふるさと観光公社	
マーケティング・マネ ジメント対象とする 区域	区域を構成する地方公共団体名 八幡浜市	
所在地	愛媛県八幡浜市	
設立時期	2018年12月14日	
職員数	2人【常勤2人(正職員1人・出向等1人)】	
代表者(トップ人 材:法人の取組につ いて対外的に最終的 に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 門田 完司 (所属組織名) 有限会社あたご	八幡浜市を代表する飲食店「浜味館あたご」の経 営者として、地域の様々なパイプ役となってお り、地域内での合意形成など種々の取組で成果を 挙げている。
データ収集・分析等 の専門人材(CM O:チーフ・マーケ ティング・オフィサ ー ※必ず記入すること	(氏名) 竹下 明伸「専従」 (所属組織名) (一社)八幡浜市ふる さと観光公社(八幡浜 市商工観光課から出 向)	長崎県の(一社)五島市観光協会に5年間勤務。 観光地域マーケティングおよび着地型観光の基盤 整備・誘致について高い知見と能力を持つ。
財務責任者 (CFO:チーフ・ フィナンシャル・オ フィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 馬淵 未菜「専従」 (所属組織名) (一社)八幡浜市ふる さと観光公社	地域の道の駅や農協での勤務経験を活かしなが ら、組織の持続可能な運営のための財務管理を担 当する。
連携する地方公共団 体の担当部署名及び 役割	八幡浜市 ○ 商工観光課(観光地づくり、マーケティング、着地型旅行商品の開発・ PR、特産品の開発・販路拡大等) ○ 政策推進課(観光地づくり、マーケティング、PR等) ○ 農林課(農林業体験プログラムの造成等) ○ 水産港湾課(漁業体験プログラムの造成等) ○ 生涯学習課(歴史・文化体験プログラムの造成等)等	
連携する事業者名及 び役割	○ 市内の旅行・観光関係の団体・企業等(市内周遊着地型旅行商品の開 発、販売・PR等への協力)…八幡浜ホテル旅館組合、(株)共盛社、四国ツ ーリスト(株)、八幡浜市観光物産協会、佐田岬広域観光推進協議会等 ○ 他DMO…(一社)愛媛県観光物産協会(愛媛DMO)、(一社)キタ・マネジメ ント等 ○ 市内交通事業者(アクセス改善)…宇和島運輸(株)、九四オレンジフェリ ー(株)、田中輸送(有)等	

(別添) 様式 1

	<p>各農林水産団体及び農林水産業者、加工業者等（特産品の開発・販路拡大、体験プログラムの造成）…八幡浜漁業協同組合、西宇和農業協同組合、NPO 法人みかんの花工房等 等</p>				
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>【該当する登録要件】① (概要) 理事会役員に、行政、宿泊事業者、交通事業者、体験事業者、農林漁業者やその団体等の長等が就任している。</p>				
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>地域住民への啓発を目的とした講演会・講習会等を毎年複数回開催している。平成 30 年度～2 年度は以下のとおり実施している。</p> <p>【平成 30 年度】(計 2 回・66 名参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2/3 講演会「八幡浜市ガイド研修会」…10 名参加 ・ 2/3 講演会「観光まちづくり講演会」…56 名参加 <p>【令和元年度】(計 12 回・322 名参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/22 講習会「ガイド講習会」…11 名参加 ・ 6/22 講演会「体験型観光で地域に元気と豊かさを」…24 名参加 ・ 6/23 講演会「体験型観光で地域に元気と豊かさを」…20 名参加 ・ 7/24 講演会「インバウンド観光に対する包括的知識について」…32 名参加 ・ 8/27 講演会「ターゲットとなる旅行者のニーズを探る」…36 名参加 ・ 9/11 講演会「国内先進事例の紹介」(にし阿波&沖縄)…45 名参加 ・ 10/28 講演会「四国の市場分析と南予誘致の可能性について」…33 名参加 ・ 10/30・11/24・12/16・1/20・3/11 講習会「インバウンド向けガイド育成講座」(全 5 回・60 名参加) ・ 11/15 講演会「体験型修学旅行の受入に向けて」(2 会場)…16 名参加 ・ 11/16 講演会「体験型修学旅行の受入に向けて」(2 会場)…10 名参加 ・ 11/25 講演会「インバウンド観光を具体的にどう推進していくか」…35 名参加 <p>【令和 2 年度】(計 9 回・95 名参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/16 講習会「体験型修学旅行等受入講習会」(2 会場)…32 名参加 ・ 10/17 講習会「体験型修学旅行等受入講習会」(3 会場)…21 名参加 ・ 10/18 講習会「体験型修学旅行等受入講習会」(1 会場)…9 名参加 ・ 10/22 講習会「体験型修学旅行等受入講習会」(2 会場)…23 名参加 ・ 10/23 講習会「体験型修学旅行等受入講習会」(1 会場)…10 名参加 				
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <p>当法人は、会員相互の連携のもと、八幡浜市及びその周辺地域の歴史、文化、自然などの資源を活用し、観光及び物産の振興を図ることにより、地域産業の発展に寄与することを目的として、会費収入や旅行業収入、八幡浜市からの助成金等により、以下の事業を行っている。</p> <table border="1" data-bbox="464 1682 1433 2016"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1682 647 1727">事業</th> <th data-bbox="647 1682 1433 1727">実施概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1727 647 2016"> (1) 観光資源の保護、保存、開発及び利用の促進 </td> <td data-bbox="647 1727 1433 2016"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30～令和 2 年度「着地型観光推進体制整備事業」…八幡浜市から業務委託を受け、「八幡浜ふるさと体験」と銘打った体験プログラム群を企画し、「養殖餌やり&船釣り体験」「森林組合入門体験」「みかん山整備体験」「さつま汁づくり体験」等を造成・販売している。 ・ 平成 30 年度、「養殖餌やり&船釣り体験」の造成に際し、遊漁船業者としての登録を受け(登録番号：愛媛県知事登録第 4113 号)、現在までに 4 隻の遊漁船及び 5 名の遊漁船 </td> </tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	(1) 観光資源の保護、保存、開発及び利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30～令和 2 年度「着地型観光推進体制整備事業」…八幡浜市から業務委託を受け、「八幡浜ふるさと体験」と銘打った体験プログラム群を企画し、「養殖餌やり&船釣り体験」「森林組合入門体験」「みかん山整備体験」「さつま汁づくり体験」等を造成・販売している。 ・ 平成 30 年度、「養殖餌やり&船釣り体験」の造成に際し、遊漁船業者としての登録を受け(登録番号：愛媛県知事登録第 4113 号)、現在までに 4 隻の遊漁船及び 5 名の遊漁船
事業	実施概要				
(1) 観光資源の保護、保存、開発及び利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30～令和 2 年度「着地型観光推進体制整備事業」…八幡浜市から業務委託を受け、「八幡浜ふるさと体験」と銘打った体験プログラム群を企画し、「養殖餌やり&船釣り体験」「森林組合入門体験」「みかん山整備体験」「さつま汁づくり体験」等を造成・販売している。 ・ 平成 30 年度、「養殖餌やり&船釣り体験」の造成に際し、遊漁船業者としての登録を受け(登録番号：愛媛県知事登録第 4113 号)、現在までに 4 隻の遊漁船及び 5 名の遊漁船 				

		<p>業務主任者を登録している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業・南予地域体験型観光コンテンツ造成事業」 …四国運輸局・八幡浜市・伊方町と連携の上実施し、観光資源の掘り起しと磨き上げを行った。その結果、「笠置峠へんろみちハイキング」「佐田岬 E-BIKE ガイドツアー」「日土東里山の田舎料理体験」「雅楽体験・神社体験」の 4 コンテンツを造成した。
	(2) 観光関係諸施設の整備、改善	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度より、八幡浜市役所内にツアーデスクを設置し、旅行者に対し観光関連情報を提供している。
	(3) 観光地帯及び観光ルートの総合的整備開発	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度より、南予地域の広域連携による教育旅行誘致を目指し、教育旅行パッケージ「ふるさと南予感動体験」を企画するとともに、その基盤整備に取り組んでいる。 令和元年度より、八幡浜市・伊方町・佐田岬広域観光推進協議会と連携の上、佐田岬半島を周遊する観光ルートを整備している。具体的には、「E-BIKE」を活用した周遊型体験プログラム等の整備を進めている。 令和 2 年度「佐田岬 E-BIKE 魅力体験ツアー造成業務」 …佐田岬広域観光推進協議会から業務委託を受け、E-BIKE を活用した募集型企画旅行を企画・実施し、2泊3日5名の参加を得た。
	(4) 観光客の誘致及び観光客に対する便宜供与	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度より、ツアーデスクや「八幡浜市観光物産情報サイト」を通して旅行者に対して観光関連情報を提供している。 令和元年度より、教育旅行誘致のための営業活動を展開している。
	(5) 観光及び物産に関する調査、研究、情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度より、来訪者満足度に係る自主アンケート調査を継続的に実施し、毎月・毎年集計の上その動向を把握している。 令和 2 年度「観光地域動向調査事業・愛媛県南予地域における欧米豪向け観光資源調査事業」 …四国運輸局・(一社)キタ・マネジメント・(一社)内子観光協会等と連携の上実施し、「神社体験」のモニター調査及び磨き上げのための検討会を行った。
	(6) 観光及び物産に関する紹介、宣伝、資料の刊行	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度より、「八幡浜市観光物産情報サイト」にて観光及び物産に関する情報提供を継続的に行っている。 平成 30 年度及び令和 2 年度「着地型観光推進体制整備事業」において、「八幡浜ふるさと体験」のパンフレットを作成した。 令和 2 年度より、教育旅行向けプログラム「ふるさと南予感動体験」の HP を開設し、その情報発信に取り組んでいる。
	(7) 観光及び物産関係	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度より、必要に応じ関係者との連絡調整を行っている。

事業者と関係機関との連絡調整	
(8) 会員が行う観光及び物産に関する事業の支援	・ 令和元年度「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業・南予地域体験型観光コンテンツ造成事業」において、専門家による講演会・ワークショップを複数回実施し、会員の参加を促し事業支援を図った。
(9) 旅行業法に基づく旅行業	・ 平成 31 年 2 月 25 日、「愛媛県知事登録旅行業 地域-209 号」として地域限定旅行業の登録を受け、同 4 月 1 日より、旅行者として「八幡浜ふるさと体験」等の販売を開始している。
(10) 特産物等の企画、製造、販売	・ 八幡浜特産の柑橘と魚介類を活用した食メニューの開発を企画中である。
定量的な評価) <ul style="list-style-type: none"> ○ 旅行消費額 <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 18 億 1,423 万 7,000 円 平成 28 年 18 億 1,778 万 2,000 円 (対前年比 100.20%) 平成 29 年 18 億 4,326 万 8,000 円 (対前年比 101.40%) 平成 30 年 18 億 3,288 万 5,000 円 (対前年比 99.44%) 令和 1 年 20 億 8,645 万 0,000 円 (対前年比 113.83%) 令和 2 年 14 億 6,540 万 0,000 円 (対前年比 70.23%) ※出典：八幡浜市調査「観光客数とその消費額」 ○ 宿泊客数 <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 10 万 5,901 人 平成 28 年 8 万 7,083 人 (対前年比 82.23%) 平成 29 年 8 万 7,680 人 (対前年比 100.68%) 平成 30 年 8 万 1,922 人 (対前年比 93.43%) 令和 1 年 7 万 8,587 人 (対前年比 95.93%) 令和 2 年 7 万 5,142 人 (対前年比 95.62%) ※出典：八幡浜市調査「観光客数とその消費額」 ○ 観光入込客数 (総数) <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 164 万 4,285 人 平成 28 年 170 万 6,919 人 (対前年比 103.81%) 平成 29 年 177 万 8,700 人 (対前年比 104.21%) 平成 30 年 176 万 5,137 人 (対前年比 99.24%) 令和 1 年 171 万 8,546 人 (対前年比 97.36%) 令和 2 年 122 万 0,538 人 (対前年比 71.02%) ※出典：八幡浜市調査「観光客数とその消費額」 	

(別添) 様式 1

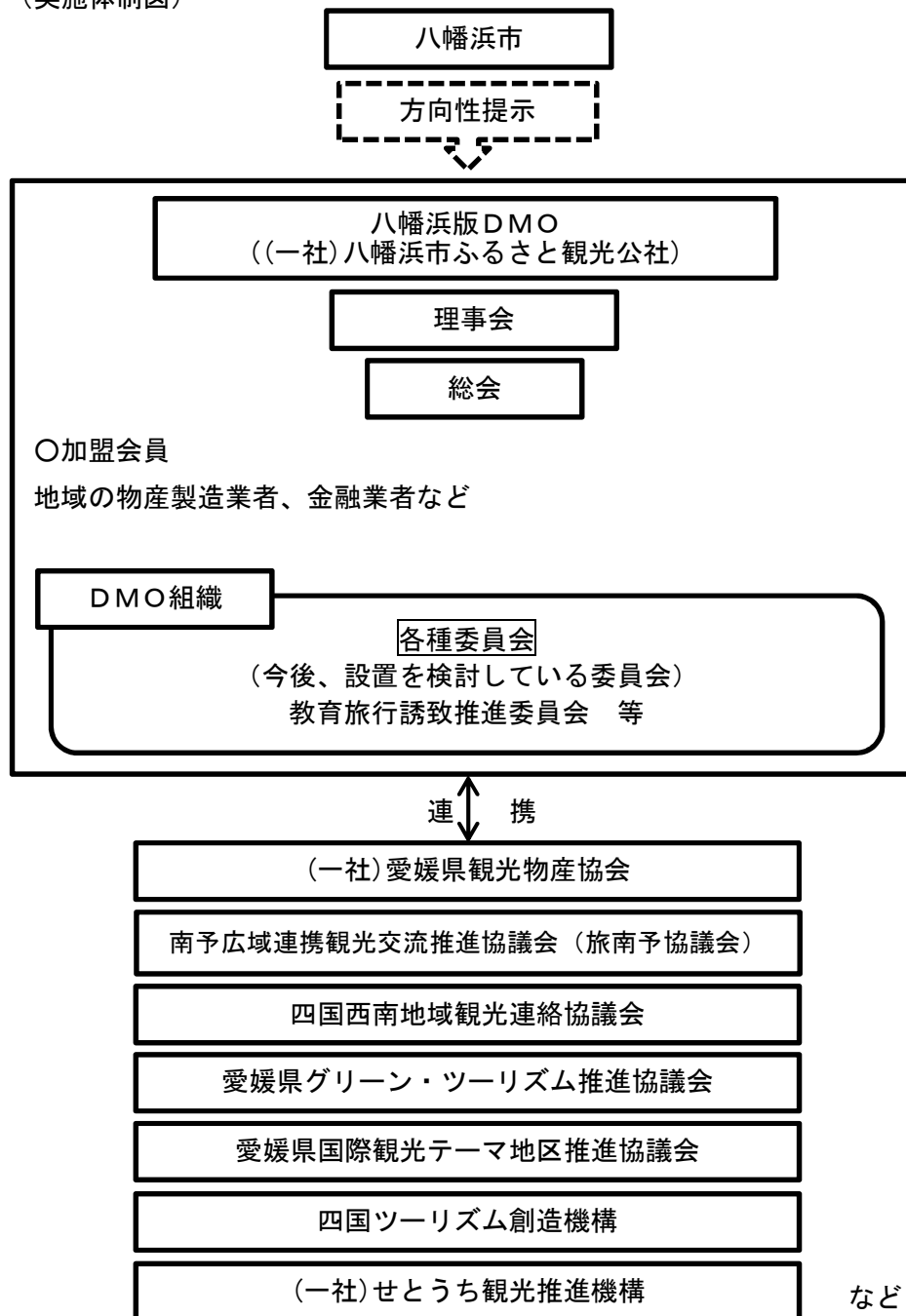
実施体制

※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること(別添可)。

(実施体制の概要)

- 総会及び理事会を定期的に開催する。
- 役員として、行政や宿泊事業者、交通事業者、物産製造業者、農林漁業者やその団体等の長等が就任。
- 会員として、地域の物産製造業者、金融業者など多様な関係者が加盟している。



(実施体制図)

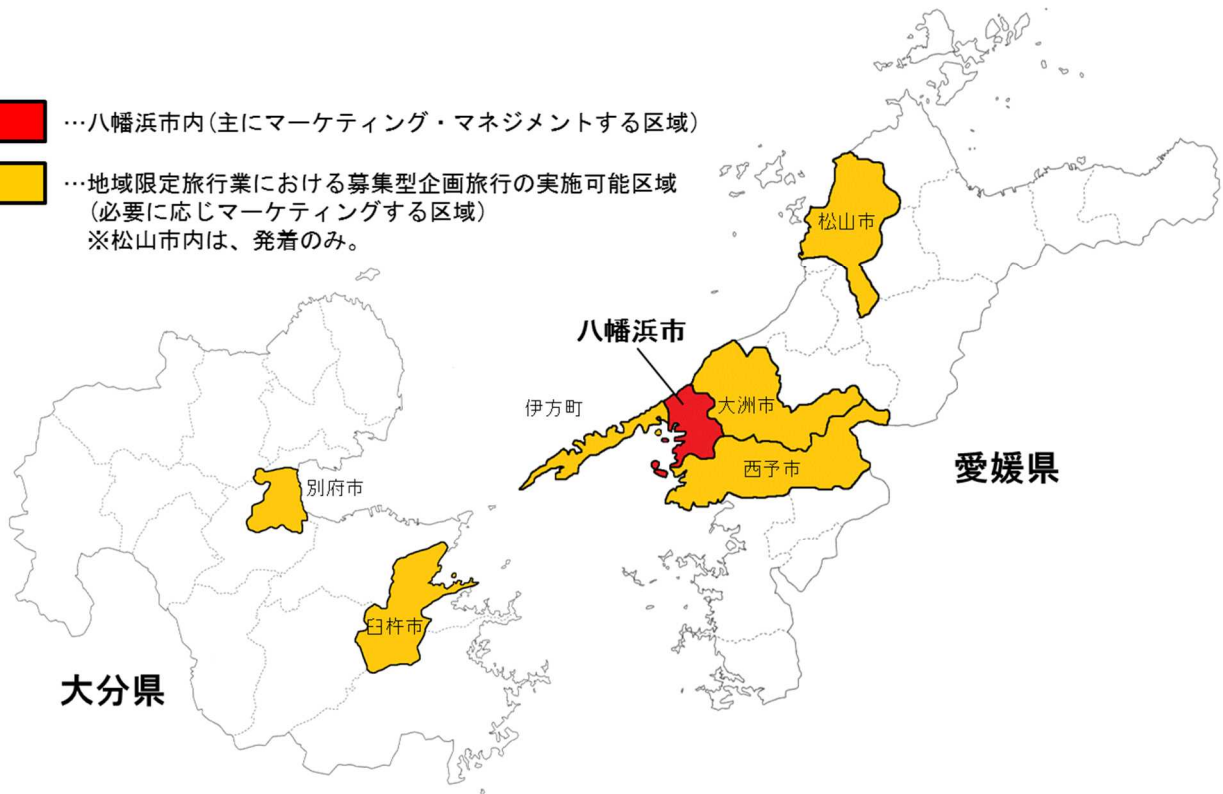


2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

- 八幡浜市内全域を主な対象とする。

-  …八幡浜市内(主にマーケティング・マネジメントする区域)
-  …地域限定旅行業における募集型企画旅行の実施可能区域(必要に応じマーケティングする区域)
※松山市内は、発着のみ。



【区域設定の考え方】

愛媛県西部、佐田岬半島の基部に位置する八幡浜市は、北は伊予灘、西は宇和海に面し、九州とも近いことから、古来より海上交易で栄えてきた。江戸時代は宇和島藩の商港として大坂や長崎との交易で栄え、「伊予の大坂」と称された。明治期には新政府の殖産興業政策を受け、鉱業・海運業・紡績業などの商工業が発達した。

戦後は水産業が飛躍的な発展を遂げ、トロール漁業の基地としてその名を全国に広めた。また、温暖な気候と丘陵地を活かした柑橘果樹の栽培が盛んになり、全国屈指の産地として認められるようになった。さらに近年では、市民のソウルフードである「八幡浜ちゃんぽん」や、国際大会も開催される「マウンテンバイク」による地域おこしにも力を入れている。

一方で、八幡浜港は九州と四国とを結ぶ連絡港として発展し、隣接する道の駅「八幡浜みなと」には年間 100 万人を超える利用者が訪れ、愛媛県を代表する観光・交流拠点施設に成長した。

戦後間もない 1954 年には八幡浜市物産協会が、1964 年には八幡浜市観光協会が組織化された。そして 2015 年には両協会が合併し八幡浜市観光物産協会が誕生し、会員相互の連携のもと、市内の観光と物産の振興を図ってきた。

このような状況下、八幡浜市の観光の課題としては、年間 170 万人を超える観光入込客数がありながら、旅行消費額が低い点が挙げられる。すなわち、愛媛県全体の入込客数一人あたりの消費額が 4,000 円程度あるのに対し、八幡浜市の場合は 1,000 円程度しかない。また、入込客総数に対する宿泊客総数の割合は、県全体では 18%程度あるのに対し、八幡浜市の場合は 5%前後しかない。

今後は、より市内の観光資源の磨き上げを行い、それらをつなぐ観光ルートを設定・定着させ、観光客の滞在時間を伸ばすことで、観光消費額の底上げを図っていく必要がある。

そのような観点から、八幡浜市内を主なマーケティング・マネジメント区域として設定する。

(別添) 様式 1

【観光客の実態等】

○ 観光入込客数

八幡浜市の観光入込客数は、2013年にオープンした道の駅「八幡浜みなと」の存在によって飛躍的に増加した。すなわち、オープン前年の2012年に59.7万人だった観光入込客数が、2013年165.6万人、2014年156.6万人、2015年164.4万人、2016年170.6万人、2017年177.8万人、2018年176.5万人、2019年171.8万人と高水準で推移している。みなとオープン後も、2014年、JR四国の観光列車「伊予灘ものがたり」の運行開始、2016年、「えひめいやしの南予博2016」の開催、「八幡浜黒湯温泉みなと湯」のオープン、2017年、「愛顔つなぐえひめ国体」の開催、2019年、「ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」の開催など、交流人口の拡大につながる大きなトピックが続いたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で122.1万人に落ち込んだ。

○ 宿泊客数

観光入込客数が170万人前後と高水準で推移する一方で、宿泊客数は10万人を下回る年が多くなっている。観光入込客総数に対する宿泊客総数の割合をみると、愛媛県全体では18%程度あるのに対し、八幡浜市の場合は5%前後しかない。

○ 観光消費額

観光消費額は、道の駅「八幡浜みなと」オープン後毎年18億円を超え、2019年には20億円を超えたが、これを観光入込客数一人あたりに換算すると、1,200円程度にしかない。愛媛県全体でみると4,000円程度になっており、八幡浜市の水準の低さが際立つ。観光消費額は宿泊とも密接な関係があることから、いかに滞在時間を伸ばし、宿泊してもらえるようにしていくかが、新型コロナウイルス感染症が収束した後の大きな課題となっている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

観光施設	八幡浜みなと、平家谷そうめん流し、おさかな牧場
商業施設	商店街（黒い商店街など）、八日市、ふれあい市
自然	諏訪崎、平家谷公園、琴平公園、夢永海水浴場、大島海水浴場
文化	明治の町並み、梅之堂三尊仏、四国山霊場、斐光園、金山出石寺
スポーツイベント	八幡浜国際MTBレース、佐田岬ふるさとウォーク、サイクリング佐田岬、二宮敬作ウォーク、シクロクロスやわたはま
その他イベント	(春)座敷雛、川名津柱松神事、さくら祭り、大元神社の百矢祭、二宮忠八翁飛行記念大会 (夏)五反田柱まつり、てやてやウェーブ、みなと花火大会 (秋)保内秋祭り、みなと祭り、産業まつり (冬)十日えびす、まるごとアート展 (その他)日土小学校見学会、八幡浜郷土企画展
体験	雅楽遊び体験、じゃこ天・かまぼこ製造体験、八幡浜湾おさんぽクルージング、やわたはま町並みウォッチング、保内町町並み散策ガイド

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

旧八幡浜市内に21軒、旧保内町内に3軒、合計24軒の宿泊施設がある。このうち6軒がホテル、6軒が旅館、12軒が簡易宿所である。収容人員は、ホテル全体で約400名、旅館全体で約200名、簡易宿所全体で約150名、合計750名となる。収容人員100名を超える宿泊施設は1軒のみ、50～99名は5軒、49名以下は18軒となっている。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

○ 区域までの交通

- ・JR予讃線・松山駅から八幡浜駅まで約50分（特急利用）
- ・車で松山空港から八幡浜市街地まで約1時間20分（松山自動車道利用）
- ・フェリーで別府港から八幡浜港まで2時間50分（宇和島運輸フェリー）
- ・フェリーで臼杵港から八幡浜港まで2時間20分（宇和島運輸フェリー・九四オレンジフェリー）

(別添) 様式 1

○ 域内交通

- ・ JR 予讃線：千丈駅～八幡浜駅～双岩駅
- ・ 路線バス：
（伊予鉄南予バス）川之内～八幡浜港、八幡浜魚市場前～鼓尾、三島神社前～雨井西町
（宇和島バス）川之内～八幡浜港、谷～穴井、八幡浜営業所～小長早
- ・ 田中輸送（定期船）：八幡浜港～大島港（片道 22 分）
- ・ 市営駐車場：5 箇所（料金 30 分まで毎に 60 円）

【外国人観光客への対応】

観光パンフレットの多言語化（英語、韓国語、中国語）を行っているほか、台湾での物産展の開催により観光誘致にも積極的に取り組んでいる。

また、インバウンドの受入推進を目指し、令和元年度には四国運輸局・八幡浜市・伊方町と連携の上、「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業・南予地域体験型観光コンテンツ造成事業」を実施し、新たな観光コンテンツの掘り起しと磨き上げを行っている。具体的には、「笠置峠へんろみちハイキング」「佐田岬 E-BIKE ガイドツアー」「日土東里山の田舎料理体験」「雅楽体験・神社体験」の 4 コンテンツを造成した。

さらに、令和元年 12 月 6 日には、農林水産省により「SAVOR JAPAN」（農泊 食文化海外発信地域）の実行組織として認定されたことから、今後特に「食」と「食文化」によるインバウンド誘致に関わる支援を受けられることとなった。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
①旅行消費額	観光客の消費額を把握することで、経済効果を図るため。 （必須 KPI 項目）	八幡浜市調査「観光客数とその消費額」による。
②延べ宿泊者数	八幡浜市への宿泊者数の実態を把握するため。 （必須 KPI 項目）	八幡浜市調査「観光客数とその消費額」による。
③来訪者満足度	来訪者の満足度を把握することで、サービス・旅行商品の改善につなげるため。 （必須 KPI 項目）	アンケート調査を自主事業として実施。
④リピーター率	リピーター率を把握することで、サービス・旅行商品の開発・改善につなげるため。 （必須 KPI 項目）	アンケート調査を自主事業として実施。
⑤観光入込客数	観光資源ごとの入込客数の実態を把握するため。	八幡浜市調査「観光客数とその消費額」による。
⑥WEBサイトのアクセス状況	旅行者の関心やニーズを把握するため。	Google アナリティクス等のアクセス解析ツールを活用。

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

八幡浜市では、他の例にもれず人口減少が進んでおり、一次産業の担い手の高齢化や後継者不足などによる地域力の低下が懸念されている。そのような中、自然や歴史・文化・食・生業等を活かした着地型観光の基盤整備と地域密着の旅行業に取り組みることにより、八幡浜市内での滞在時間と

(別添) 様式 1

観光消費の底上げを図り、これにより交流人口を拡大し、ひいては移住・定住を促進し、観光地域づくりの実現を目指している。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <p>・ 自地域で積極的に活用できる強みは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 四国と九州とをつなぐフェリー航路を持つ。 ○ 日本屈指のみかん産地で、みかん生産高は県内一。 ○ 四国有数の水揚げを誇る魚市場を持つ。 ○ 国際的なマウンテンバイク大会や、サイクリング大会を開催している。 ○ レンタサイクル環境が充実している。 ○ 八幡浜ちゃんぽんがソウルフードとして根づいている。 ○ 豊かな自然（海、山）に囲まれている。 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <p>・ 自地域で改善を必要とする弱みは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ 宿泊まで至る観光客が圧倒的に少ない。 ▲ 魅力のある宿泊施設が少ない。 ▲ 観光拠点となる港と駅とのアクセスが悪い。 ▲ 国内外における認知度が低い。 ▲ A級の観光資源がない。 ▲ 多くの観光資源が未開発。 ▲ 若者に受ける観光資源が少ない。 ▲ 外国人観光客の受入体制が不十分。 ▲ 情報発信力が弱い。
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <p>・ 自地域にとって追い風となる要素は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の増加 ○ 情報化社会の進展 ○ 観光ニーズの多様化 ○ 国際観光需要(インバウンド)の急増 ○ 国の観光施策の強化 ○ 四国遍路の日本遺産登録 ○ 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした国際観光の一層の発展 	<p>脅威 (Threat)</p> <p>・ 自地域にとって逆風となる要素は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ 人口減少・高齢化 ▲ 国内観光消費額の伸び悩み ▲ 地域間競争の激化 ▲ 消費税の引き上げ

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

(3) ターゲット

○第1ターゲット層

体験・交流型観光を嗜好・希求する、国内都市部の若年層及び修学旅行者

○選定の理由

日本国内の都市部では、住民同士のふれ合いや地域とのつながりが希薄なことから、普段の暮らしでは味わえない地域住民とのふれ合いを通して、地域の自然や文化・食・生業などにふれる機会が求められている。特に関東・関西の大都市圏の若年層のニーズが高いものと考えられる。

また、中高生の教育旅行市場も、物見遊山的なものから体験・交流型へシフトしつつあることから、その層も含めた「体験・交流型観光を嗜好・希求する、国内都市部の若年層及び修学旅行者」を第1のターゲットとして設定する。

このことにより、他地域とはちがう八幡浜市の魅力を味わってもらい、国内外から持続的に観光客を誘致できる状況を今後確立していく。

○取組方針

八幡浜市の特色を最大限に活かし、自然や歴史・文化・食・生業に関連した体験・交流型旅行商品を作成するとともに、既存商品をブラッシュアップする。それをWeb等の様々なツールを活用し情報発信するとともに、旅行会社向けのプロモーションに取り組む。

また、来訪者満足度調査の実施等により、再来訪および来訪者拡大につながる要因を分析し、その結果に基づきさらにコンテンツを磨き上げ、八幡浜市ならではの体験・交流型観光を確立する。

※ ターゲットの絞込みにあたっては、八幡浜市調査「観光客数とその消費額」のうち、「観光地別観光入込客数」(別紙)を参考とした。それによると、分類「イベント」のうち、「佐田岬ふるさとウォーク」「サイクリング佐田岬」「二宮敬作ウォーク」「大島おさんぽクルーズ」といった、地域住民とのふれ合いを通じた体験型観光が大きな伸びをみせていることから、「体験・交流型観光を嗜好・希求する、国内都市部の若年層及び修学旅行者」をターゲットとした。

○第2ターゲット層

地域の農林水産物を活かした「食」を希求する、国内シニア層

○選定の理由

特に時間的余裕があり、観光地めぐりを趣味とする国内シニア層は、新たな旅行先を常に探していることから、日本屈指の柑橘産地であり、四国有数の水揚げを誇る魚市場を有する八幡浜は、今後アピール次第で大きなターゲットになってくるものと考えられる。そのため、「地域の農林水産物を活かした食を希求する、国内シニア層」を第2のターゲットとして設定する。

具体的には、日帰りの松山からの観光客に加え、大分や高知・高松等からのマイカー利用者が第一のターゲットとして想定できるが、第1ターゲット層向けコンテンツとの連携により、関東・関西の大都市圏の観光客も徐々に取り込んでいきたい。

このことにより、観光客の満足度向上および国内外から持続的に観光客を誘致できる状況を今後確立していく。

○取組方針

特産品を活かした八幡浜市ならではの「食」を提供する飲食業者等と連携し、Web等の様々なツールを活用しその情報発信をするとともに、旅行会社向けのプロモーションやモニターツアー等に取り組む。

また、来訪者満足度調査の実施等により、再来訪および来訪者拡大につながる要因を分析し、八幡浜市ならではの「食」を提供する体制を整備する。

※ ターゲットの絞込みにあたっては、八幡浜市調査「観光客数とその消費額」のうち、「観光地別観光入込客数」(別紙)を参考とした。それによると、分類「買物」での入込が極めて高く、そのほとんどが「食」を提供する施設・イベントであることから、「地域の農林水産物を活かした「食」を希求する、国内シニア層」をターゲットとした。

(別添) 様式 1

<p>○第3ターゲット層 サイクリング観光を嗜好・希求する、国内及び台湾のサイクリスト</p>
<p>○選定の理由 愛媛県はサイクリング観光に力を入れており、県内外から多くのサイクリストが「しまなみ海道」等の優良なサイクリングコースを訪れている。また、愛媛県を訪れる外国人観光客で一番多い台湾はサイクルツーリズムの先進地であることから、「サイクリング観光を嗜好・希求する、国内及び台湾のサイクリスト」を第4のターゲットとして設定する。この層は、基本的にサイクリングすること自体が目的となるため、第2ターゲット層向けコンテンツとの親和性が特に高いものと考えられる。 八幡浜市は国際的なマウンテンバイク大会やサイクリング大会を開催している上、レンタサイクル環境が充実している。その地の利を活かして、他地域にないサイクリング観光を提供することにより、広く国内外から持続的に観光客を誘致できる状況を今後確立していく。</p> <p>○取組方針 八幡浜市の多様な自然や歴史・文化・食・生業等を満喫できるサイクリング観光の魅力を、Web等の様々なツールを活用して情報発信するとともに、モニターツアーの実施等によりコンテンツを磨き上げる。 また、関係機関等と連携して、サイクリング観光に係る環境整備(サイクリングロードの開発・整備、周辺観光の充実)等に努める。</p>
<p>○第4ターゲット層 都市化された日本には興味を示さない、香港・英・米・加・豪の観光客</p>
<p>○選定の理由 現在、四国を訪れる外国人観光客は、台湾と香港で過半数を占める一方、世界の観光市場では欧米豪の占める割合が非常に大きい。一般的に香港人の志向性は欧米人と似ており、また英語でのコミュニケーションが可能なことから、今後、香港・英・米・加・豪等の観光客を第3のターゲットとして設定する。 わざわざ四国を訪れる外国人観光客は、都市化された日本よりもむしろ、日本本来の自然や歴史・文化・食・生業を求める傾向があるとされることから、第1、第2ターゲット層向けコンテンツとの親和性が高いものと考えられる。 このことにより、持続的に外国人観光客を誘致できる状況を今後確立していく。</p> <p>○取組方針 訪日動機で上位の、「食」「名所」「自然景観」「アクティビティ」等を中心とした着地型旅行商品の造成等を行い、Web等の様々なツールを活用しその情報発信をするとともに、ガイドブックの多言語化等の外国人観光客の受入環境の整備に取り組む。 また、関係団体と広域的に連携して、その誘致に取り組む。</p>

(4) 観光地域づくりのコンセプト

<p>①コンセプト</p>	<p>八幡浜市型“ふるさと観光モデル”の確立</p>
<p>②コンセプトの考え方</p>	<p>年間170万人を超える観光入込客数を有する八幡浜市は、海・山・川の豊かな自然に囲まれ、柑橘や魚介類、その加工品、さらにちゃんぽん等特産品にも恵まれている。そこで、自然や歴史・文化・食・生業等を活かした着地型観光の基盤整備と地域密着の旅行業に取り組むことにより、八幡浜市内での滞在時間と観光消費の底上げを図り、これにより交流人口を拡大し、ひいては移住・定住を促進し、“ふるさと”八幡浜市全体の活性化に寄与することを目指す。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民への啓発を目的とした講習会・講習会等を毎年複数回開催している。 ・ 八幡浜市商工観光課の担当者及び八幡浜市観光物産協会の実務者とは、少なくとも月に1回は打合せを実施の上、アンケート調査の報告と戦略の共有を図っている。 ・ 事業報告書については、八幡浜市商工観光課にその内容を報告するとともに、各 KPI について市の戦略との整合性が取れていることを確認している。 ・ また、上記の戦略に基づき、平成 30 年度から令和 3 年まで、八幡浜市から「着地型観光推進体制整備事業」の委託を受けている。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者満足度に係る自主アンケート調査を継続的に実施し、毎月・毎年集計の上その動向を把握し、八幡浜市商工観光課と共有するとともに、理事会・総会でもその情報共有を図っている。 ・ 令和 1 年度、四国運輸局と連携して実施した「南予地域体験型観光コンテンツ造成事業」においては、地域の観光関係事業者等を対象に専門家による講演会・ワークショップを複数回実施した。 ・ 令和 2 年度、四国運輸局と連携して実施した「愛媛県南予地域における欧米豪向け観光資源調査事業」においては、地域の観光関係事業者を対象に観光コンテンツの磨き上げに取り組んだ。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年度より、「八幡浜市観光物産情報サイト」及びその SNS を利用して、観光及び物産に関する一元的な情報発信を行っている。 ・ 令和 2 年度、佐田岬広域観光推進協議会から委託を受けた「佐田岬 E-BIKE 魅力体験ツアー造成事業」においては、自転車総合情報 Web サイトに広告を出稿するなど、ターゲットに応じたメディア選択等の効果的な手法によるプロモーションを導入した。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI (実績・目標)

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後 3 年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去 3 年間の実績も記入すること。

(1) 必須 KPI

指標項目		2018	2019	2020	2021	2022	2023
		(H30) 年	(R1) 年	(R2) 年	(R3) 年	(R4) 年	(R5) 年
●旅行消費額 (百万円)	目標	1,843.268	1,860.268	1,460.515	2,086.450	2,105.950	2,125.450
	実績	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	1,832.885	2,086.450	1,465.400	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
		87.68	88.18	60.15	85.93	86.43	86.93
		(-)	(-)	(1.80)	(0.52)	(2.59)	(2.61)
		81.92	78.59	75.14	-	-	-

(別添) 様式 1

	実績	(3.39)	(2.42)	(0.45)	(-)	(-)	(-)
●来訪者満足度 (%)	目標	-	-	76.4	83.8	84.4	85.0
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	76.4	83.8	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
●リピーター率 (%)	目標	-	-	55.1	67.5	68.1	68.7
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	55.1	67.5	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

必須 KPI の設定にあたっては、八幡浜市調査「観光客数とその消費額」から、観光に係る主要指標を抽出し(別紙)参考とした。

それによると、観光入込客数は平成 27 年から 28 年に 62,634 人増、28 年から 29 年に 71,781 人増と高水準で推移してきたが、平成 30 年 7 月豪雨を中心とした災害等の影響により 30 年は 1,765.1 千人、令和 1 年は 1,718.5 千人と減少が続いた。令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、前年比 29%減となる 1,220.5 千人にまで落ち込んだ。

令和 3 年は、令和 1 年と同水準まで持ち直すことを目標とし、4 年以降は年間 10,000 人ずつ増加していくものと仮定して目標設定をしている。

また、同資料から、観光入込客一人あたりの平均旅行消費額は、おおよそ 1 千円と仮定できる。同じく同資料から、観光入込客のうち宿泊者が占める割合は、おおよそ 5%であると仮定できる。同じく同資料から、宿泊者数に占める外国人宿泊者数が占める割合は、おおよそ 3%であると仮定できる(ただし、令和 2 年は 0.6%まで落ち込んだ)。

※上記の前提条件は、必要に応じて見直していく予定である。

●旅行消費額

令和 2 年の旅行消費額は、前年比 21.5%減となる 1,465,400 千円にまで落ち込んだ。

令和 3 年は、前述のとおり令和 1 年と同水準まで観光入込客数が回復することを目標としているため、2,086,450 千円を目標として設定している。

令和 4 年は、令和 3 年の目標 2,086,450 千円に、

- ① 新規の宿泊客消費額、すなわち、増加した観光入込客数 10,000 人×5%×20,000 円(宿泊単価 10,000 円+体験・交流型観光等の費用 6,000 円+食事代 2,000 円+買物代 2,000 円の合計額と仮定)=10,000 千円と、
- ② それを除く観光入込客消費額、すなわち、増加した観光入込客数 10,000 人×95%×平均旅行消費額 1 千円=9,500 千円

を加えた額(2,086,450+10,000+9,500=)2,105,950 千円を目標として設定している。

●延べ宿泊者数

前述のとおり、観光入込客のうち 5%が宿泊するものと仮定しているため、令和 3 年は 1,718.5 千人×5%=85.93 千人を、令和 4 年は 1,728.5 千人×5%=86.43 千人を目標として設定している。

●延べ宿泊者数における外国人延べ宿泊者数について

令和 3 年は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられるため、令和 2 年と同水準となると仮定している。すなわち、総宿泊者数の 0.6%が外国人となるため、85.93 万人×

(別添) 様式 1

0.6%＝0.52千人を目標として設定している。令和4年以降は、例年通り総宿泊者数の3%まで回復すると仮定しているため、令和4年は86.43千人×3%＝2.59千人を目標として設定している。

●来訪者満足度

来訪者満足度は、自主アンケート調査をもとに、令和2年の実績値(83.8%)が得られた。令和3年は同水準を維持することを目標としている。

令和4年については、新規に増加する観光入込客10,000人がすべて満足度向上するものと仮定し、それが全体に占める割合(0.6%)を足した「84.4%」を、目標として設定している。

●リピーター率

リピーター率は、自主アンケート調査をもとに、令和2年の実績値(67.5%)が得られた。令和3年は同水準を維持することを目標としている。

令和4年については、新規に増加する観光入込客10,000人がすべてリピーターだと仮定し、それが全体に占める割合(0.6%)を足した「68.1%」を、目標として設定している。

(2) その他の目標

指標項目		2018	2019	2020	2021	2022	2023
		(H30) 年	(R1) 年	(R2) 年	(R3) 年	(R4) 年	(R5) 年
●観光入込客数 (千人)	目標	—	—	1,203.0	1,718.5	1,728.5	1,738.5
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	実績	1,765.1	1,718.5	1,220.5	—	—	—
		()	()	(—)	(—)	(—)	(—)
●Webサイトの アクセス数 (万PV)	目標	—	—	11.4	12.6	13.6	14.6
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	実績	—	10.4	11.6	—	—	—
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

「観光入込客数」は、必須KPIを設定する上で必要な要素となるため、KPIに加えている。八幡浜市調査「観光客数とその消費額」をその根拠とし、今後もそれに従う予定である。

「Webサイトのアクセス数」については、世間一般の八幡浜市に対する興味・関心を測る指標として、KPIに加えている。アクセス解析ツールを活用した自主調査をその根拠とし、今後もそれに従う予定である。

【設定にあたっての考え方】

●観光入込客数

前述のとおり、令和3年は令和1年水準まで回復することを目標とし、令和4年以降は年間10,000人ずつ増加していくものと仮定して目標設定をしている。

●Webサイトのアクセス数

Webサイトのアクセス数は、自主調査をもとに、令和2年の実績値(11.6万PV)が得られた。Webサイトの内容は年々充実していくため、観光入込客数の増減に係らず、毎年1万PVずつ増加していくものと仮定して目標設定している。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に(1)収入、(2)支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳	金額
2018(H30) 年度	3,008(千円)	【受取助成金等】 (内訳) 着地型観光推進体制整備事業 (八幡浜市からの受託事業)	3,000(千円) 3,000(千円)
		【会費収入】	8(千円)
2019(R1) 年度	4,560(千円)	【受取助成金等】 (内訳) 着地型観光推進体制整備事業 (八幡浜市からの受託事業)	4,496(千円) 4,496(千円)
		【会費収入】	12(千円)
		【収益事業収入】 (内訳) 旅行業(手配旅行)*教育旅行 旅行業(募集型企画旅行) 旅行業(受注型企画旅行) 雑収益	51(千円) 0(千円) 43(千円) 0(千円) 8(千円)
		【その他収益】	1(千円)
2020(R2) 年度	7,273(千円)	【受取助成金等】 (内訳) 着地型観光推進体制整備事業 (八幡浜市からの受託事業) 佐田岬 E-BIKE 魅力体験ツアー一造成業務 (佐田岬広域観光推進協議会からの受託事業)	7,015(千円) 6,315(千円) 700(千円)
		【会費収入】	14(千円)
		【収益事業収入】 (内訳) 旅行業(手配旅行)*教育旅行 旅行業(募集型企画旅行) 雑収益	233(千円) 0(千円) 78(千円) 155(千円)
		【その他収益】	11(千円)
2021(R3) 年度	8,583(千円)	【受取助成金等】 (内訳) 着地型観光推進体制整備事業 (八幡浜市からの受託事業) 南予地域体験型教育旅行誘致活動支援事業 (旅南予協議会からの受託事業) きずな博受託事業	7,299(千円) 6,278(千円) 521(千円) 500(千円)
		【会費収入】	14(千円)

(別添) 様式 1

		【収益事業収入】 (内訳) 旅行業(手配旅行)*教育旅行 旅行業(募集型) ¥6,000*10人*6月	1,270 (千円) 910 (千円) 360 (千円)
2022 (R4) 年度	8,938 (千円)	【受取助成金等】 (内訳) 着地型観光推進体制整備事業 (八幡浜市のからの受託事業)	6,278 (千円) 6,278 (千円)
		【会費収入】	20 (千円)
		【収益事業収入】 (内訳) 旅行業(手配旅行)*教育旅行 ¥10,000*3C:120人 旅行業(募集型) ¥6,000*20人*12月	2,640 (千円) 1,200 (千円) 1,440 (千円)
2023 (R5) 年度	11,668 (千円)	【受取助成金等】 (内訳) 着地型観光推進体制整備事業 (八幡浜市のからの受託事業)	6,278 (千円) 6,278 (千円)
		【会費収入】	30 (千円)
		【収益事業収入】 (内訳) 旅行業(手配旅行)*教育旅行 ¥10,000*8C:320人 旅行業(募集型) ¥6,000*30人*12月	5,360 (千円) 3,200 (千円) 2,160 (千円)

(2) 支出

年(年度)	総支出	内訳	金額
2018 (H30) 年度	1,618 (千円)	【管理費】 (内訳) 理事会・総会運営経費	5 (千円) 5 (千円)
		【着地型観光推進体制整備事業費】 (内訳) コーディネート体制整備費 体験プログラム整備費 調査・研究費	1,163 (千円) 583 (千円) 528 (千円) 51 (千円)
		【その他】 (内訳) 法人税	450 (千円) 450 (千円)
2019 (R1) 年度	4,143 (千円)	【管理費】 (内訳) 理事会・総会運営経費 減価償却費	348 (千円) 15 (千円) 333 (千円)
		【着地型観光推進体制整備事業費】 (内訳) コーディネート体制整備費 体験プログラム整備費 誘客プロモーション活動費 旅行会社等招聘費 情報発信費 調査・研究費	3,555 (千円) 577 (千円) 1,774 (千円) 686 (千円) 245 (千円) 27 (千円) 246 (千円)

(別添) 様式 1

		【収益事業運営費】 (内訳) 業務委託費(体験インストラクターへの報酬)等 雑費	46 (千円) 34 (千円) 11 (千円)
		【その他】 (内訳) 法人税	195 (千円) 195 (千円)
2020 (R2) 年度	7,281 (千円)	【管理費】 (内訳) 理事会・総会運営経費 減価償却費	602 (千円) 23 (千円) 579 (千円)
		【着地型観光推進体制整備事業費】 (内訳) コーディネート体制整備費 体験プログラム整備費 誘客プロモーション活動費 旅行会社等招聘費 情報発信費 調査・研究費	5,786 (千円) 787 (千円) 3,333 (千円) 83 (千円) 61 (千円) 1,410 (千円) 111 (千円)
		【佐田岬 E-BIKE 魅力体験ツアー造成業務事業費】	750 (千円)
		【収益事業運営費】 (内訳) 業務委託費(体験インストラクターへの報酬)等 雑費	53 (千円) 25 (千円) 28 (千円)
		【その他】 (内訳) 法人税	91 (千円) 91 (千円)
2021 (R3) 年度	8,583 (千円)	【着地型観光推進体制整備事業費】 (内訳) コーディネート体制整備費(*人件費含む) 体験プログラム整備費 誘客プロモーション活動費 旅行会社等招聘費 情報発信費 調査・研究費	6,096 (千円) 4,406 (千円) 217 (千円) 843 (千円) 250 (千円) 200 (千円) 180 (千円)
		【南予地域体験型教育旅行誘致活動支援事業】	521 (千円)
		【きずな博受託事業】	500 (千円)
		【収益事業運営費】 (内訳) 業務委託費(体験インストラクターへの報酬)等 雑費	1,270 (千円) 1,016 (千円) 254 (千円)
		【その他】	100 (千円)

(別添) 様式 1

		(内訳) 法人税	100 (千円)
2022 (R4) 年度	8,938 (千円)	【管理費】	20 (千円)
		(内訳) 理事会・総会運営経費	20 (千円)
		【着地型観光推進体制整備事業費】	6,178 (千円)
		(内訳) コーディネート体制整備費(*人件費含む)	4,405 (千円)
		体験プログラム整備費	300 (千円)
		誘客プロモーション活動費	843 (千円)
		旅行会社等招聘費	250 (千円)
		情報発信費	200 (千円)
		調査・研究費	180 (千円)
		【収益事業運営費】	2,640 (千円)
		(内訳) 業務委託費(体験インストラクターへの報酬)等	2,112 (千円)
		雑費	528 (千円)
		【その他】	100 (千円)
		(内訳) 法人税	100 (千円)
2023 (R5) 年度	11,668 (千円)	【管理費】	30 (千円)
		(内訳) 理事会・総会運営経費	30 (千円)
		【着地型観光推進体制整備事業費】	6,178 (千円)
		(内訳) コーディネート体制整備費(*人件費含む)	4,405 (千円)
		体験プログラム整備費	300 (千円)
		誘客プロモーション活動費	843 (千円)
		旅行会社等招聘費	250 (千円)
		情報発信費	200 (千円)
		調査・研究費	180 (千円)
		【収益事業運営費】	5,360 (千円)
		(内訳) 業務委託費(体験インストラクターへの報酬)等	4,824 (千円)
		雑費	536 (千円)
		【その他】	100 (千円)
		(内訳) 法人税	100 (千円)

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・ 八幡浜市等からの補助金・受託事業の増による基盤の確立
- ・ 着地型旅行商品の造成・販売等の実施

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

八幡浜市は、一般社団法人八幡浜市ふるさと観光公社を、本市における「地域DMO」として認める。

9. マーケティング・マネジメント対象区域が他の地域連携DMOや地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

エリアが重複する愛媛DMOとは、定期的に打合せの場を設け、各取組の意見交換を行っている。

重複する活動は特にない。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	竹下 明伸
担当部署名（役職）	事務局
郵便番号	796-8501
所在地	愛媛県八幡浜市北浜一丁目1番1号
電話番号（直通）	0894-22-0855
FAX番号	0894-22-5653
E-mail	takesita-akinobu@city.yawatahama.ehime.jp

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

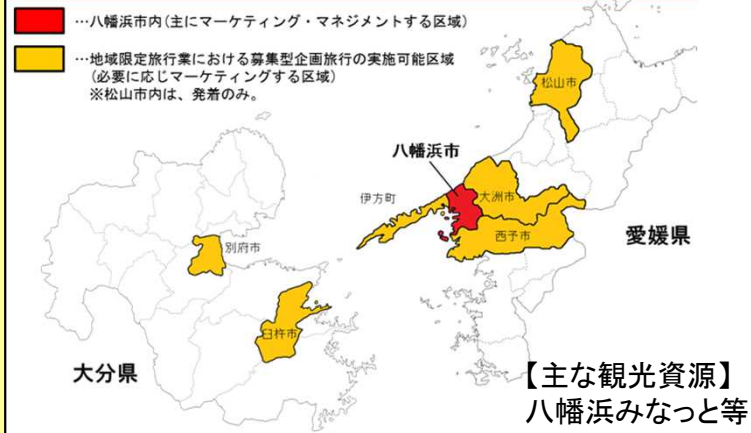
都道府県・市町村名	八幡浜市
担当者氏名	松浦 宏昭
担当部署名（役職）	商工観光課（係長）
郵便番号	796-8501
所在地	愛媛県八幡浜市北浜一丁目1番1号
電話番号（直通）	0894-22-3111
FAX番号	0894-24-6180
E-mail	matuura-hiroaki@city.yawatahama.ehime.jp

八幡浜市型“ふるさと観光モデル”の確立

実施体制



マーケティング・マネジメントする区域



- 【区域】 八幡浜市
【設立時期】 2018年12月14日
【代表者】 会長 門田 完司
【マーケティング責任者(CMO)】 竹下 明伸
【財務責任者(CFO)】 馬淵 未菜
【職員数】2名
(常勤2人(正職員1人・出向等1人))
【連携する主な事業者】
・市内の旅行・観光関係の団体・企業等
・市内交通事業者
・各農林水産団体
・農林水産業者・加工業者等

合意形成の仕組み

- 【該当する登録要件】①
(概要)理事会役員に、行政、宿泊事業者、交通事業者、体験事業者、農林漁業者やその団体等の長等が就任している。

法人のこれまでの活動実績

- ツアーデスクを設置し、旅行者に対し観光関連情報を提供(H30年度～)
- 地域住民に対する講演会・講習会等を開催(H30年2月～計23回・483名参加)
- 地域限定旅行業の登録を受け、着地型旅行商品を企画・実施(H31年2月～)
- 個人旅行向け体験プログラム「八幡浜ふるさと体験」の販売を開始(H31年4月～計9商品)
- 南予9市町の広域連携により、教育旅行向けプログラム「ふるさと南予感動体験」の販売を開始(R1年12月～)
- 農林水産省により「SAVOR JAPAN」(農泊 食文化海外発信地域)の実行組織として認定(四国では3番目)(R1年12月)。
- 来訪者満足度に係る自主アンケート調査を継続的に実施(H30年度～)

戦略

- 【主なターゲット】
体験・交流型観光を嗜好・希求する、国内都市部の若年層及び修学旅行生
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
八幡浜市の特色を最大限に活かし、自然や歴史・文化・食・生業に関連した体験・交流型旅行商品を造成するとともに、既存商品をブラッシュアップする。それをWeb等の様々なツールを活用し情報発信するとともに、旅行会社向けのプロモーションに取り組む。
また、来訪者満足度調査の実施等により、再来訪および来訪者拡大につながる要因を分析し、その結果に基づきさらにコンテンツを磨き上げ、八幡浜市ならではの体験・交流型観光を確立する。

観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

- 八幡浜市担当者、八幡浜市観光物産協会実務者との、月1回以上の戦略共有化。
- 観光関係者等を対象にした講習会等の実施。
- 来訪者満足度自主アンケート調査の実施。
- SNSやWebサイトによる一元的な情報発信
- 効果的な手法によるプロモーションの導入。

KPI(実績・目標)

※()内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目	2018 (H30) 年	2019 (R1) 年	2020 (R2) 年	2021 (R3) 年	2022 (R4) 年	2023 (R5) 年	
旅行消費額 (百万円)	目標	1,843.268 (-)	1,860.268 (-)	1,460.515 (-)	2,086.450 (-)	2,125.450 (-)	
	実績	1,832.885 (-)	2,086.450 (-)	1,465.400 (-)	- (-)	- (-)	- (-)
延べ宿泊者数 (千人)	目標	87.68 (-)	88.18 (-)	60.15 (1.80)	85.93 (0.52)	86.43 (2.59)	86.93 (2.61)
	実績	81.92 (3.39)	78.59 (2.42)	75.14 (-)	- (-)	- (-)	- (-)
来訪者満足度 (%)	目標	- (-)	- (-)	76.4 (-)	83.8 (-)	84.4 (-)	85.0 (-)
	実績	- (-)	76.4 (-)	83.8 (-)	- (-)	- (-)	- (-)
リピーター率 (%)	目標	- (-)	- (-)	55.1 (-)	67.5 (-)	68.1 (-)	68.7 (-)
	実績	- (-)	55.1 (-)	67.5 (-)	- (-)	- (-)	- (-)

活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

- 【主な収入】 7,273千円(収益事業233千円、受託事業収入7,015千円、会費14千円、雑収益11千円)(R2年度)
【総支出】 7,281万円(事業費6,588千円、管理費602千円、法人税91千円)※R2年3月期決算
【自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】
・八幡浜市等からの受託事業による財政基盤の確立
・着地型旅行商品の造成・販売等の実施